科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号: 12601

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2017~2023 課題番号: 17K03423

研究課題名(和文)刑法解釈に基づく刑事要件事実論の研究

研究課題名(英文)Study on elements of crime

研究代表者

樋口 亮介(Higuchi, Ryosuke)

東京大学・大学院法学政治学研究科(法学部)・教授

研究者番号:90345249

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文): 刑法解釈に基づいて立証対象になる事実を特定するという作業を大幅に進捗させることができた。特に、規範的要件に依存する度合いが高い過失犯について事案ごとの立証対象の特定方法を解明する論稿を公刊することができた。また、責任能力や性犯罪といった処罰範囲が不明瞭な概念についても、処罰を基礎づける事実の具体化に取り組むことができた。そのほか、共同正犯について、特に特殊詐欺事案の包括的共謀を素材にして、要件事実の観点から立証対象を明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義 刑事実務において実体法に基づいて処罰範囲を明らかにすべきであるにもかかわらず、実体法の不明確さによってその限界が明らかでない領域は多岐にわたる。そのような問題に対して、本研究は刑事実務において依拠できるだけの具体性と信頼性を帯びる提言を行うことを目標として実体法の明確化を目指した。研究推進に際して、複数の研究者との連携を行うこともできたため、広く信頼を集めるという目標を相当程度達成できたと考える。

研究成果の概要(英文): I was able to significantly advance the process of identifying the facts that constitute the subject of proof based on interpretations of criminal law. In particular, I was able to publish a paper clarifying the method of identifying the subject of proof for cases involving a high degree of negligence relying on normative requirements. Additionally, I was able to work on concretizing the facts underlying concepts with unclear punishment ranges such as liability and sexual crimes. Furthermore, regarding accomplice liability, especially based on comprehensive conspiracy in cases of special fraud, I was able to clarify the subject of proof from the perspective of essential facts.

研究分野: 刑法

キーワード: 刑法解釈

1.研究開始当初の背景

本研究を開始した平成29年当時、刑法解釈が公訴事実あるいは罪となるべき事実にどのように反映されるのかという問題意識が学会では低調であった。刑法が具体的な訴訟の場においてどのように投影されるかという問題意識を広めること自体が求められる状況にあった。

2.研究の目的

本研究は、刑法解釈に基づいて、処罰範囲及び量刑を左右する終局的な事実(要件事実)を確定することを目的とするものであった。従来の刑法解釈は刑事訴訟という具体的場面、刑事訴訟法との関係を度外視していたように思われ、本研究は、刑法と刑事訴訟法を架橋し、具体的な訴訟の場で刑法が活かされることを目指すものであった。

取り上げることを予定していた分野は、性犯罪、過失犯、共謀共同正犯、責任能力、量刑であ あった。

3.研究の方法

複数の領域にまたがる形で、要件事実論的な検討を裁判例や学説を基礎にしながら進める。その際には、法律実務家及び精神医学者との共同研究の機会を積極的に利用することを予定していた。

実際に予定していたとおり、法曹実務家、精神科医との連携の機会は多数に昇り、訴訟の場に 刑法を反映する方法を討論することができた。

また、刑法学会全国大会における分科会への登壇の機会を2回、刑法学会関西部会における分科会への登壇の機会も2回得ることができ、責任能力、共同正犯、過失犯、性犯罪という当初予定していた4つのテーマについて共同研究の形で大いに推進する機会を得るという幸運に恵まれた。

4. 研究成果

当初、予定していた過失、共同正犯、性犯罪、責任能力について成果を出すことができたことに加えて、刑法各論領域まで含めて幅広い問題について成果を公表することができた。

平成 29 年度は注意義務の内容を公訴事実に示し、かつ、裁判所がそれをどのように審査するかという点を刑法解釈が規律する手法を提示することができた。注意義務の内容確定プロセスという問題意識は過失犯を論じる際の基本的な発想として学会に広まっていると思われる。

また、平成 29 年の性犯罪規定の改正を受けて、量刑及び監護者性交等・わいせつ罪の要件事実も提示することができた。

平成30年度は注意義務の内容確定プロセスを引き続き示した他、共同正犯における共謀の意義を提示することができた。著しい混乱状態にある共同正犯について、因果的共犯論という刑事訴訟の場を規律できるはずがない議論を誤ったものとして排斥するための準備作業を行うことができた。

平成31年(令和元年)度は、特殊詐欺を素材に共謀立証で必要な事実を刑法の観点から提示した。さらに、共同正犯について実行共同正犯という古典的枠組みを再評価すべきことも提案できた。

また、責任能力について、刑法学会の分科会における精神科医との共同研究を通じて、犯罪を 思いとどまる能力は立証の対象になっていないとの問題意識から、それに代わる枠組みを提示 することができた。

他にも、過失犯について、刑法学会関西部会における企業災害についての共同研究を通じて、特に、JR 福知山事件の位置づけを示すことが d けいた。

令和2年度は、特殊詐欺対策の企画を立て、その際、共同正犯の一局面としての承継的共同正犯について扱うことができた。また、性犯罪の要件事実を論じる前提として、包括的な比較法研究を提示することができた。性犯罪規定の比較法研究は、性犯罪に対する関心の高まりもあり、浩瀚な書籍であるにもかかわらず、多くの読者の目に触れる機会を得ることができた。

令和3年度は、これまでの比較法研究の成果も土台としつつ、裁判例の網羅による立証対象の 提示という問題意識による連載を開始することができた。性犯罪、及び、共同正犯における立証 対象の確定方法について、多数の裁判例から抽出するという手法を学会に示すことができた。

さらに、刑法学会関西部会における報告を踏まえて、立法論においても訴訟の場で立証される 具体的事実を特定できることの重要性を論じることもできた。

本研究の問題意識に基づく研究の継続が必要であり、また、コロナの影響による予定していた研究会の消滅もあり、本研究をさらに延長して令和4年・5年度も研究を継続した。

令和4年度は、共同正犯について引き続き包括研究を行うとともに、実行の着手、不法領得の

意思という古典問題についても研究対象に取りこむことができた。

特に、刑法学会における特殊詐欺対策についての包括的な共同研究を通じて、包括的共謀及び共謀の射程・離脱についての刑法理解から立証対象を具体的に提示することができた。

令和5年度は、刑法各論においてもやはり立証対象が不分明な点が多いとの問題意識から、特に、暴行概念について包括的な研究を提示することができた。また、性犯罪改正を受けて、 新法下における立証対象事実を具体的に提案することもできた。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計30件(うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件)

1.著者名 樋口亮介	4.巻 75巻12号
2.論文標題	5 . 発行年
背任罪の構造	2023年
3.雑誌名	6 . 最初と最後の頁
法曹時報	2437 - 2483
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1.著者名 樋口亮介	4 . 巻 95巻11号
2.論文標題	5 . 発行年
不同意性交等・わいせつ罪 : 新176・177条1項の解釈・運用	2023年
3 . 雑誌名	6 . 最初と最後の頁
法律時報	70 - 76
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名	4 . 巻
樋口亮介	68巻6号
2.論文標題	5 . 発行年
暴行罪の「通説」に潜む問題とその乗り越え方	2023年
3.雑誌名	6 . 最初と最後の頁
法学セミナー	4 - 11
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1.著者名 樋口亮介	4 . 巻 67巻4号
2 . 論文標題	5 . 発行年
類型論に基づく共同正犯の構造化(その4・完)	2022年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
法学セミナー	118-126
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無

	. 24
1 . 著者名	4 . 巻
	67巻7号
2 . 論文標題	5 . 発行年
	2022年
薬物輸入の罪における共同正犯(その1)	2022#
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
法学セミナー	93-99
72.1 - 1.7	00 00
	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	
オープンアクセスとはない、又はオープンアクセスが四無	-
1.著者名	4.巻
樋口亮介	67巻8号
ME TOUT	1 -1 3
2 - \$\delta \cdot +\pi 15	F 25/-/-
2 . 論文標題	5.発行年
薬物輸入の罪における共同正犯(その1)	2022年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
法学セミナー	102-110
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無 無
40	***
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
	_
樋口亮介	67巻9号
2.論文標題	5.発行年
薬物輸入の罪における共同正犯(その1)	2022年
* INTENTION ON INTENTION OF THE PROPERTY OF TH	2022
2 hP±+ 47	6.最初と最後の頁
3.雑誌名	
法学セミナー	110-119
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
掲載論文のDOI(デンタルオプシェクト識別士) なし	無
なし	無
なし	無
オープンアクセス	
なし	無
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名	無 国際共著 - 4.巻
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名	国際共著 - 4 . 巻
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 樋口亮介	無 国際共著 - 4.巻 891
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 樋口亮介 2 . 論文標題	無 国際共著 - 4.巻 891 5.発行年
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 樋口亮介	無 国際共著 - 4.巻 891
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 樋口亮介 2 . 論文標題 不法領得の意思 : 比較法と学説史を通じた議論の整理	無 国際共著 - 4.巻 891 5.発行年 2022年
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 樋口亮介 2 . 論文標題	無 国際共著 - 4.巻 891 5.発行年
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 樋口亮介 2 . 論文標題 不法領得の意思 : 比較法と学説史を通じた議論の整理 3 . 雑誌名	無 国際共著 - 4 . 巻 891 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 樋口亮介 2 . 論文標題 不法領得の意思 : 比較法と学説史を通じた議論の整理	無 国際共著 - 4.巻 891 5.発行年 2022年
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 樋口亮介 2 . 論文標題 不法領得の意思 : 比較法と学説史を通じた議論の整理 3 . 雑誌名	無 国際共著 - 4 . 巻 891 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 樋口亮介 2 . 論文標題 不法領得の意思 : 比較法と学説史を通じた議論の整理 3 . 雑誌名 研修	無 国際共著 - 4 . 巻 891 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 3-32
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 樋口亮介 2 . 論文標題 不法領得の意思 : 比較法と学説史を通じた議論の整理 3 . 雑誌名	無 国際共著 - 4 . 巻 891 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
なし オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 樋口亮介 2 . 論文標題 不法領得の意思: 比較法と学説史を通じた議論の整理 3 . 雑誌名 研修 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)	無 国際共著 - 4 . 巻 891 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 3-32
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 樋口亮介 2 . 論文標題 不法領得の意思 : 比較法と学説史を通じた議論の整理 3 . 雑誌名 研修	無 国際共著 - 4 . 巻 891 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 3-32
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 樋口亮介 2 . 論文標題 不法領得の意思: 比較法と学説史を通じた議論の整理 3 . 雑誌名 研修 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	無 国際共著 - 4 . 巻 891 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 3-32 査読の有無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 樋口亮介 2.論文標題 不法領得の意思: 比較法と学説史を通じた議論の整理 3.雑誌名 研修 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	無 国際共著 - 4 . 巻 891 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 3-32

1 . 著者名 大野 洋, 酒井 孝之, 清水 拓二, 長谷川 英, 五十嵐 禎人, 樋口 亮介	4.巻
2. 論文標題 責任能力判断の実践的検討(下)	5 . 発行年 2022年
3 . 雑誌名 判例タイムズ	6.最初と最後の頁 68-83
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名 樋口亮介	4 . 巻 61巻2号
2 . 論文標題 特殊詐欺における包括的共謀と抜き事案における共同正犯の成否	5.発行年 2022年
3.雑誌名 刑法雑誌	6.最初と最後の頁 324-342
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名 樋口亮介	4 . 巻 66巻4号
2.論文標題 性犯罪における暴行脅迫・心神喪失・抗拒不能要件と同意(その1)	5 . 発行年 2021年
3 . 雑誌名 法学セミナー	6.最初と最後の頁 57-69
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1.著者名 樋口亮介	4 . 巻 66巻5号
2.論文標題 性犯罪における暴行脅迫・心神喪失・抗拒不能要件と同意(その2)	5 . 発行年 2021年
3 . 雑誌名 法学セミナー	6.最初と最後の頁 100-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著

.著者名	4.巻
樋口亮介	66巻6号
. 論文標題	5.発行年
	2021年
性犯罪における暴行脅迫・心神喪失・抗拒不能要件と同意(その3)	2021年
ABAL CO	6 P47 P// 6 T
. 雑誌名	6.最初と最後の頁
法学セミナー	106-116
載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
ープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
. 著者名	4 . 巻
樋口亮介	66巻7号
.論文標題	5 . 発行年
性犯罪における暴行脅迫・心神喪失・抗拒不能要件と同意(その4)	2021年
THE PROPERTY OF THE PROPERTY O	20211
hR±+ 47	(見知し目後の五
. 雑誌名	6.最初と最後の頁
法学セミナー	104-115
載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
40	////
	To the LL att
ープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	·
. 著者名	4 . 巻
樋口亮介	66巻12号
.論文標題	5 . 発行年
類型論に基づく共同正犯の構造化(その1)	2021年
3. The second of	
. 雑誌名	6.最初と最後の頁
法学セミナー	106-113
載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無無
'& U	***
ープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
. 著者名	4 . 巻
	_
樋口亮介	67巻2号
+V 1 THE DEF	F 75.7— F
.論文標題	5.発行年
. 論文標題 類型論に基づく共同正犯の構造化(その2)	2022年
類型論に基づく共同正犯の構造化(その2)	2022年
類型論に基づく共同正犯の構造化(その2) . 雑誌名	2022年 6 . 最初と最後の頁
類型論に基づく共同正犯の構造化(その2)	2022年
類型論に基づく共同正犯の構造化(その2) . 雑誌名	2022年 6 . 最初と最後の頁
類型論に基づく共同正犯の構造化(その2) . 雑誌名 法学セミナー	2022年 6 . 最初と最後の頁
類型論に基づく共同正犯の構造化(その2) . 雑誌名 法学セミナー	2022年 6 . 最初と最後の頁 104-113
類型論に基づく共同正犯の構造化(その2) . 雑誌名 法学セミナー 載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	2022年 6.最初と最後の頁 104-113 査読の有無
類型論に基づく共同正犯の構造化(その2) . 雑誌名 法学セミナー	2022年 6 . 最初と最後の頁 104-113
類型論に基づく共同正犯の構造化(その 2) . 雑誌名 法学セミナー 載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし	2022年 6.最初と最後の頁 104-113 査読の有無 無
類型論に基づく共同正犯の構造化(その2) . 雑誌名 法学セミナー 載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	2022年 6.最初と最後の頁 104-113 査読の有無

	1 . 10
1.著者名	4.巻
樋口亮介	67巻3号
2 - 5人-4	F 78/-/T
2 . 論文標題	5.発行年
類型論に基づく共同正犯の構造化(その3)	2022年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
法学セミナー	103-108
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
4. U	////
,	
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	<u> </u>
1 . 著者名	4 . 巻
	_
樋口亮介	66巻1号
2.論文標題	5 . 発行年
	2021年
性犯罪規定に関する裁判例・立法論の検討 : アメリカ法を参照して	ZUZ1年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
刑法雑誌	133-159
UNICH CONT	122 100
担 封 公立の DOL / ごご クリ ナゴご - クリ 神 叫 フヽ	本柱の左位
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	
オープンアクセスにはない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4.巻
樋口亮介	75巻1号
READON .	
2.論文標題	5.発行年
特殊詐欺のすり替え事案における窃盗未遂	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
	59-109
警察学論集	59-109
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
ナープンフカもつ	
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
	92巻12号
樋口亮介	32212万
2 . 論文標題	5.発行年
承継的共同正犯	2020年
	2020 1
つ Matiting	6 見知し見後の五
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
法律時報	37-42
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	
クーノファノ じへ しはなり、 入はカー ノファノ じへか 四無	•

	1 . w
1,著者名	4.巻
樋口亮介	58
2.論文標題	5.発行年
企業災害・両罰規定における個人の過失責任	2019年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
刑法雑誌	3-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
4 . 看有右 	4.含 91
ᄤᆸᇨᆀ	
2.論文標題	5 . 発行年
平成の刑法総論	2019年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
法律時報	35-43
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-

1 . 著者名	4 . 巻
樋口亮介	91
2 . 論文標題	5.発行年
特殊詐欺における共謀認定	2019年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
法律時報	61-66
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
樋口亮介	58
2.論文標題	5.発行年
責任非難の構造に基づく責任能力論	2019年
つ 1社主々	6 早加し早後の古
3 . 雑誌名 刑法雑誌	6.最初と最後の頁 313-329
パリノム 赤年成 る	313-329
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
複載調文のDOT (アンダルタフシェクト級が丁) なし	重読の有無 無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-

1.著者名	4 . 巻
樋口亮介	844
META 7071	
2 2 2 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	F 翌4二年
2.論文標題	5.発行年
共謀共同正犯における共謀の意義	2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
研修	3 - 25
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
40	***
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	4 . 巻
1 . 著者名	
樋口亮介	-
2 . 論文標題	5.発行年
実行共同正犯	2019年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
井上正仁先生古稀祝賀論文集	133-156
기 ㅗㅗ I= /U ㅗ니 IP /U 및 III / A I	130-130
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
	717
+ 1,755	〒1000 ++
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	<u>.</u>
1 . 著者名	4.巻
樋口亮介	69巻12号
2.論文標題	5 . 発行年
注意義務の内容確定プロセスを基礎に置く過失犯の判断枠組み(1)	2017年
/工总表初の27日曜だフロビスで全座に直へ迎入がのデ西川十温の(1)	2017—
- 1811 6-	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
法曹時報	3661-3734
75.12	
相手込みでのDOL / デンタル・サイン・ ちょきかいフィ	本生の大畑
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	日かハゼ
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	4.巻
- Marian	70巻1号
ᄱᆖᅜᄀᄔ	70817
2 . 論文標題	5.発行年
注意義務の内容確定プロセスを基礎に置く過失犯の判断枠組み(2)	2018年
2. 사람	6 見知に見後の五
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
法曹時報	1-74
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-

1 . 者者名 	4 . を 70巻2号
2.論文標題 注意義務の内容確定プロセスを基礎に置く過失犯の判断枠組み(3)	5 . 発行年 2018年
3.雑誌名 法曹時報	6.最初と最後の頁 333-367
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1.著者名 樋口亮介	4.巻 89巻11号
2.論文標題 性犯罪規定の改正	5 . 発行年 2017年
3.雑誌名 法律時報	6.最初と最後の頁 112-118
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
【学会発表】 計4件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件) 1.発表者名 樋口亮介 2.発表標題 性犯罪規定に関する裁判例・立法論の検討 : アメリカ法を参照して	
3 . 学会等名 日本刑法学会関西部会 4 . 発表年 2021年	
1.発表者名 樋口亮介	
2 . 発表標題 特殊詐欺における共同正犯の限界	
3.学会等名 日本刑法学会	
4 . 発表年 2021年	

1.発表者名 樋口亮介	
2 . 発表標題 性犯罪規定に関する裁判例・立法論の検討:アメリカ法を参照して	
3.学会等名 刑法学会	
4.発表年 2021年	
1.発表者名 樋口亮介	
2 . 発表標題 責任非難と責任能力	
3.学会等名 刑法学会	
4.発表年 2018年	
〔図書〕 計1件	. 77 (- 1-
1 . 著者名 樋口亮介 深町晋也 仲道祐樹 川崎友巳 和田俊憲 佐藤陽子 佐藤拓磨 矢野恵美 松澤伸 金塚彩 乃 東條明徳 嶋矢貴之 張ウンヒョク; 黄土軒	4 . 発行年 2020年
2.出版社成文堂	5 . 総ページ数 ¹⁰⁷²
3 . 書名 性犯罪規定の比較法研究	
〔産業財産権〕	
〔その他〕	
- 6.研究組織	
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) (研究者番号)	備考
7.科研費を使用して開催した国際研究集会	
〔国際研究集会〕 計0件	
8.本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況	

相手方研究機関

共同研究相手国